



# 名寄市立大学の窓から

## 知への誘い

vol.70

### 「リスクはクスリ」

保健福祉学部 社会福祉学科

准教授

長谷川

武史



みなさんは「リスク」と聞いてどのようなイメージを持ちますか。一般的な意味として、結果を予測できる度合いや損失を受ける可能性を意味します。日常生活の中では、事故や病気に掛かるリスクに対して民間保険に入っている方も多いと思います。また、介護保険制度は社会全体で介護を必要とするリスクに備えた制度といえます。

その化学物質は何らかの有害性を有しており、有害か否かはその量に依存する」という考え方が議論され始めました。化学物質を単に存在する量で判断するのはなく、影響を受ける人間がどのような状況で接触しているかを踏まえて影響を評価し、許容以上の場合、何らかの手段によって許容レベルを下げる「リスク管理」の手法が研究されてきました。どれだけ危険性のある物質がそこに存在しているも、その物質に遭遇する可能性が下がれば安全は確保できる。逆に、危険性のある物質が小さくとも、遭遇する可能性が高い場合にはそれに対する対策を講じる必要があるということが議論されてきました。

おいて重大なリスクの1つとして自然災害への備えがあると思います。例えば雪害については、普段、積雪の少ない地域では少しの積雪でも交通がマヒして大きな影響を及ぼしますが、名寄市のような地域では、街自体が雪害に強いつくりになっていることや、住民の知識や経験によって大きな影響を受けずに生活することができます。

普段の生活の中で、想定しにくい災害が発生した際には、被害が大きくなる可能性が高まるのです。今年7月の西日本を中心とした豪雨災害では、大雨の時間帯が深夜だったこともあり、避難の遅れが大きな被害となる事態が多く発生しました。避難遅れの要因の1つとして「正常性バイアス」が存在したと言われています。正常性バイアスとは、異常事態に直面していながら「たいたことにはならない」「自分は大丈夫」「今までも問題無かったから」と思い込み、危機的状況を無視してしまう心理的傾向のことです。この正常性バイアスを払拭することはなかなか難しいことなのですが、正しい知識を得ることが対策として非常に重要となります。

### 大学図書館へようこそ！

大学では後期の授業が始まりました。9月の胆振東部地震の時はまだ夏休み中、午後5時までの開館ですので停電でもなんとか明るさを確保できました。しかし、災害はいつ起こるかわかりませんので、図書館でも様々な対策が必要であることを改めて実感しました。

#### 【10月の開館について】

- ・日曜日と体育の日は休館です。
- ・そのほかは、9：00～21：00の開館です。



#### ◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)

### 大学図書館にはこんな本があります

～く「知」への誘い～からもう1歩～

「リスク」について考える本を紹介します。

『リスクセンス一身の回りの危険にどう対処するか』

ジョン・F・ロス/著 集英社

『人はなぜ逃げおくれるのか—災害の心理学』

ひろせ ひろただ 広瀬弘忠/著 集英社

『生活リスクマネジメント』

—安全・安心を実現する主体として—

なほ せみこ 奈良由美子/著 放送大学教育振興会

『巨大災害のリスク・コミュニケーション』

やもり かつや 矢守克也/著 ミネルヴァ書房

